



山口調理製菓専門学校長 須内章雅
Sunouchi Akimasa



○ ごあいさつ

4月1日付けで本校に着任しました須内章雅と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

義務教育（特別支援教育を含む）の職場を定年退職で離れたあと、これまで保育系とデザイン及びビジネス系の専門学校で勤めてきました。本校は三種類目の学校となります。主に中学校で勤めてきた私は高等学校との付き合いもありましたが、専門学校は新鮮でした。専門学校のよさや存在意義を実感しています。本校のよさや特色もたくさんあると思います。ゆっくりと見つけていきたいと思っています。この「KOCHO だより」はこれまで9年間続けてきました。10年目も新しい視点で記述していきたいと思っています。作成の目的・内容は学校のPRや学生たちに伝えたいことなどですが、個人的な“つぶやき”になることもあります。気軽に読み流していただければ幸いです。

さて、私が山口調理製菓専門学校に来てからそれほど日にちが過ぎていませんが、入学式と始業式を7日に行いました。学生たちの姿を初めて見ました。事前に写真は見ていましたが、実際に会話などをしてみないとどんな個性なのかはわかりませんね。今年の入学生は調理師科が43名、製菓衛生師科が37名です。2年コースの12名を含めると92名になります。新学期の活気が始まりました。

○ 式

新入生と私にとって初めての入学式・始業式です。私自身はいろいろな学校で経験してきており十数回目となりますが、本校では初めてです。新入生と同じような緊張感も久しぶりに味わいました。式辞では時間の過ぎていく速さのことを投げかけました。「厳密に言えば、万人にとって平等なことはほとんどないと言えるが、時間の過ぎていく速さは全ての人（動植物も）にとって完璧に平等です。」というような内容です。感じ方は人それぞれでしょうけれども、物理的には同じ速さで過ぎていきます。どのように使いますか？ということですね。1年間という短い学びの時間です。就職活動もすぐに始まります。有意義に使って欲しいという思いで伝えました。

また、この4月から成人と判断される年齢が18歳となりました。今年は学生全員がすでに大人の仲間入りをしています。自由度は増えるけれどもそれに対する責任もついてきます。その自覚をして欲しいということも伝えました。

○ 私

あらためて自己紹介を少ししてみます。私の専門は美術・造形です。独身時代と単身赴任時代に自炊をしていましたが、調理は専門ではありません。しかし、ものづくりという面では共通点もあると思いますので、面白いことをたくさん見つけていきたいと思っています。また、先生方からもこれまでとは違う刺激を受けていきたいと思っています。すでにいろいろな刺激があります。

ふたたび入学式の式辞で取り上げた内容ですが、食は生き物にとっての根源です。栄養を取る手段でもあります。人間にとっては癒やしの行為でもありますね。そういったことを職業にできるというのは幸せなことでしょう。学生たちにはこのようなことも伝えていきたいと思っています。

○ 自校自賛

謙虚さも美德ですが、この欄では大きなことはもちろん、小さなことでも自画（校）自賛していきたいと思っています。早速ですが、入学式で挨拶してくれた山中さんです。

彼はダブルライセンス（製菓衛生師科→調理師科）の修得を目指して再入学してきました。私は壇上から初めてその姿を見ましたが、明朗快活、好青年という印象を受けました。頼もしく感じました。料理やお菓子を作る人は基本的にはお客さんに見られることは多くありません。しかし、チームワークが必要な職業だと思いますので、彼のような資質は必要であり大切なことだろうと思いました。

